



## 2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月7日

上場会社名 株式会社 アドバンス・メディア  
 コード番号 3773 URL <http://www.advanced-media.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 鈴木 清幸

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営管理本部長 (氏名) 立松 克己

TEL 03-5958-1031

四半期報告書提出予定日 2020年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	3,382	23.9	383	60.0	410	6.7	328	5.4
2019年3月期第3四半期	2,729	21.4	240	44.5	384	90.2	347	77.7

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 233百万円 (14.5%) 2019年3月期第3四半期 272百万円 (33.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	18.01	
2019年3月期第3四半期	19.65	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	11,635	10,481	88.8
2019年3月期	11,360	10,231	88.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 10,331百万円 2019年3月期 10,071百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,000	17.5	800	10.5	730	19.7	650	31.4	35.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	18,272,724 株	2019年3月期	18,267,524 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	133 株	2019年3月期	133 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	18,270,416 株	2019年3月期3Q	17,707,238 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当社グループは、音声認識ビジネスを人工知能などの付加により、価値を増幅させたBSR（超音声認識）ビジネスに進化させ、2020年3月期までのBSR導入期、2023年3月期までのBSR展開期、2026年3月期までのBSR拡大期を経て、3年間の売上高をそれぞれ2倍（年平均30%増）、BSR拡大期の最終年度で営業利益率30%を実現することを計画しております。

そのような計画のもと、BSR導入期3カ年の最終年度である当連結会計年度につきましては、今までの主力のプロダクト販売やソリューションビジネスというフロービジネスの拡大と、新たなAmiVoice®クラウドプラットフォーム（ACP）とAmiVoice®クラウドサービス（ACS）のライセンス販売およびサブスクリプションビジネスを進めてまいりました。ACPとはAmiVoice®音声認識エンジンのクラウド経由の利用環境であり、ACSとは当社開発のAmiVoice®音声認識エンジンを利用したクラウドサービスのことを言います。

当第3四半期においては、当社のコア技術である「AI音声認識」（AIにより認識精度などを向上させた音声認識：AmiVoice®）や「音声AI」（音声認識を含む音声処理を前提としたAI技術：AmiAgent®）による、ライセンス販売およびサブスクリプションビジネスとソリューションビジネスが堅調に推移いたしました。

また、音声認識市場ベンダー別売上金額シェア1位を5年連続で獲得（株式会社アイ・ティ・アールの発行する市場調査レポート「ITR Market View：AI市場2019」）いたしました。これらは、音声認識市場が拡大していく中で、当社の商品やサービスが各分野で高いシェアを維持し続け市場を牽引している結果であると考えております。

その結果、売上高に関しましては、BSR1（第一の成長エンジン）においては、CTI事業部およびVoXT事業部が大幅に増収し前年同期比30.4%増となりました。また、BSR2（第二の成長エンジン）においては、ビジネス開発センターが大幅に増収したものの連結子会社のAMIVOICE THAI CO., LTD. とグラモが減収したこと等から、前年同期比8.5%増となりました。よって、当社グループ全体では、前年同期比23.9%の増収となりました。

損益に関しまして、営業利益につきましては、BSR1（第一の成長エンジン）において、CTI事業部およびVoXT事業部が増益したこと等により前年同期比67.1%増と大幅な増益となりました。一方、BSR2（第二の成長エンジン）において、連結子会社のAMIVOICE THAI CO., LTD. とグラモの赤字幅拡大が影響し、前年同期比で減益となったものの、当社グループ全体では、BSR1（第一の成長エンジン）の大幅な増益によって、前年同期比で60.0%増と大幅な増益となりました。経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同期は為替差益を計上しましたが、当第3四半期連結累計期間では為替差損を計上したこと等により、前年同期と同水準となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,382百万円（前年同期は売上高2,729百万円）、営業利益383百万円（前年同期は営業利益240百万円）、経常利益410百万円（前年同期は経常利益384百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益328百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益347百万円）となりました。

音声事業の各分野別の状況は、以下のとおりであります。

#### BSR1の状況

	売上高	（前年同期比）	営業利益	（前年同期比）
BSR1（第一の成長エンジン）	2,675百万円	30.4%増	662百万円	67.1%増

#### CTI事業部（BSR1）

コンタクトセンター市場において競合企業の参入はあるものの、当社のAI音声認識ソリューション「AmiVoice® Communication Suite」の認識精度や機能、導入実績等の競争優位性の強化に加えて、パートナー連携を強化することで、シェアの拡大を進めました。そのような中、大型案件の獲得も堅調に進みました。

#### STF事業部（BSR1）

AI音声認識プラットフォームサービス「AmiVoice® Cloud Platform（ACP）」をリリースいたしました。これにより、利用時間に応じた安価な価格<sup>注1</sup>で音声認識エンジンをそのまま利用することや自らが開発・販売するアプリケーションおよびサービスのユーザーインターフェースとして利用することができるようになります。

また、訪日外国人観光客サービス対応に向けた多言語音声翻訳アプリケーション「AmiVoice® TransGuide」が、大手交通機関に採用されました。さらには、お客様窓口等の対面での商談をAI音声認識技術で文字化し、コンプライアンスの徹底や業務効率化を支援する「対面業務見える化ソリューション」の提案を進めました。

注1）今回リリースの汎用型音声認識エンジンの利用価格は従量型であり、比較可能なGAFAs等が提供しているサービスよりも安価です。

医療事業部（BSR1）

病院における医師や看護師、医療従事者の生産性向上の取り組みの中で、効率的にカルテ入力や帳票/報告書作成等を行うニーズに対して、AI音声入力ソフト「AmiVoice® Ex7」シリーズや、モバイル向けのAI音声入力サービス「AmiVoice® SBx Medical」、ワークシェアリングサービス「AmiVoice® iNote」などの販売や導入を進めました。

VoXT事業部（BSR1）

地方自治体、大手民間企業や報道機関等における生産性向上の取り組みの中で、効率的に議事録や会議録の作成あるいは文字起こし等を行うニーズに対して、AI音声認識を活用した議事録作成支援システム「AmiVoice® MinutesWriter」や議事録向けAmiVoice®クラウドサービス「ProVoXT」の採用が進みました。また、パートナー企業との連携強化により販売や導入を進めました。

BSR2の状況

	売上高	（前年同期比）	営業損失	（前年同期比）
BSR2（第二の成長エンジン）	752百万円	8.5%増	△273百万円	—

海外事業部・ビジネス開発センター（BSR2）

海外事業部は、中国語版AI音声認識AmiVoice® エンジンのさらなる認識精度向上や、コールセンターに続く新しい分野への事業開発に取り組みました。

ビジネス開発センターは、建設業界向け建築工程管理のプラットフォームサービス「AmiVoice® スーパーインスペクションプラットフォーム（SIP）」のユーザー企業数を増やしました。あわせて、同クラウドサービスを利用した人材（AISH<sup>注2</sup>）サービスも堅調に推移しました。

注2）AISH（アイッシュ）とは「AI Super-Humanizing（AIによるスーパーマン化）」のことを言います。

連結子会社等（BSR2）

AMIVOICE THAI CO., LTD.（タイ王国）は、想定していた案件の獲得が進まず、当初計画を下回りました。

株式会社グラモは、大手賃貸アパート会社への提案や導入に向けたトライアルを進めました。一方で、既存大口顧客の案件獲得が想定を下回ったこと等から、当初計画を下回りました。

株式会社速記センターつくばは、自治体向け・裁判所向け・民間向け案件の受注獲得等を進めました。

株式会社Rixioは、ビジネス開発センターと連携し、人材サービスの拡大/強化を進めました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は7,827百万円となり、前連結会計年度末に比べ280百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が466百万円、受取手形及び売掛金が250百万円、電子記録債権が57百万円減少したこと、金銭の信託が400百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は3,807百万円となり、前連結会計年度末に比べ555百万円増加いたしました。これはMultimodal Technologies, LLC.（米国）に対して、2025年10月1日から2035年9月30日までの10年間のライセンス費用として3百万米ドル（324百万円）を一括して前払いしたこと、本社移転等により有形固定資産が213百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、11,635百万円となり、前連結会計年度末に比べ274百万円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は983百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円増加いたしました。これは前受金（売上代金の前受）が214百万円増加したこと、未払法人税等が85百万円、買掛金が56百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は170百万円となり、前連結会計年度末に比べ7百万円増加いたしました。これは主に本社移転により、資産除去債務が7百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、1,154百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は10,481百万円となり、前連結会計年度末に比べ250百万円増加いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益328百万円等を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は88.8%（前連結会計年度末は88.7%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月10日付公表の通期連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,484,622	6,018,207
受取手形及び売掛金	1,263,388	1,012,578
金銭の信託	-	400,000
電子記録債権	74,900	17,024
商品及び製品	100,391	124,318
仕掛品	7,489	43,239
原材料及び貯蔵品	52,446	32,055
未収入金	6,030	6,958
その他	122,288	176,488
貸倒引当金	△2,780	△2,991
流動資産合計	8,108,778	7,827,879
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	84,833	177,546
減価償却累計額	△41,331	△11,942
減損損失累計額	△32,655	△3,090
建物（純額）	10,845	162,513
その他	221,047	273,478
減価償却累計額	△155,424	△152,458
減損損失累計額	△10,926	△4,881
その他（純額）	54,696	116,138
有形固定資産合計	65,542	278,651
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	273,573	345,680
ソフトウェア仮勘定	76,293	47,266
のれん	15,666	9,667
その他	115	115
無形固定資産合計	365,649	402,731
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,176,725	2,116,919
敷金及び保証金	183,315	217,137
長期前払費用	243,939	543,056
繰延税金資産	59,485	70,885
その他	157,468	178,559
投資その他の資産合計	2,820,933	3,126,559
固定資産合計	3,252,124	3,807,942
資産合計	11,360,903	11,635,821

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	132,966	76,063
短期借入金	75,004	100,000
1年内返済予定の長期借入金	9,000	12,324
未払金	208,130	177,341
未払法人税等	118,340	32,439
前受金	247,837	462,435
その他	174,441	122,813
流動負債合計	965,720	983,417
固定負債		
長期借入金	156,084	155,454
資産除去債務	7,821	15,537
固定負債合計	163,905	170,991
負債合計	1,129,625	1,154,408
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,868,417	6,871,755
資本剰余金	5,876,092	5,879,431
利益剰余金	△2,837,155	△2,508,996
自己株式	△226	△226
株主資本合計	9,907,128	10,241,964
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	159,420	77,168
為替換算調整勘定	5,397	12,366
その他の包括利益累計額合計	164,817	89,535
新株予約権	-	10,163
非支配株主持分	159,331	139,750
純資産合計	10,231,277	10,481,412
負債純資産合計	11,360,903	11,635,821

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）
売上高	2,729,981	3,382,393
売上原価	818,774	1,082,012
売上総利益	1,911,207	2,300,380
販売費及び一般管理費	1,671,190	1,916,460
営業利益	240,017	383,920
営業外収益		
受取利息	31,074	30,460
受取配当金	-	14,432
為替差益	81,377	-
投資事業組合運用益	21,043	10,234
持分法による投資利益	10,280	-
雑収入	2,382	3,118
営業外収益合計	146,158	58,245
営業外費用		
支払利息	1,217	1,526
為替差損	-	26,509
持分法による投資損失	-	3,802
雑損失	629	142
営業外費用合計	1,847	31,979
経常利益	384,328	410,186
特別損失		
固定資産除却損	-	6,670
関係会社清算損	-	417
特別損失合計	-	7,088
税金等調整前四半期純利益	384,328	403,097
法人税、住民税及び事業税	48,521	69,868
法人税等調整額	-	24,892
法人税等合計	48,521	94,760
四半期純利益	335,806	308,337
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△12,072	△20,660
親会社株主に帰属する四半期純利益	347,878	328,997



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	335,806	308,337
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63,638	△82,251
為替換算調整勘定	928	6,254
持分法適用会社に対する持分相当額	△494	714
その他の包括利益合計	△63,205	△75,282
四半期包括利益	272,601	233,054
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	284,673	253,714
非支配株主に係る四半期包括利益	△12,072	△20,660

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。